

青森県現代俳句協会会報

令和2年度青森県現代俳句協会総会

当初は、令和2年5月16日(土)10時30分から青森市文化会館で総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスのため会場を使用する会議を中止することとしました。

そこで議案を全会員に郵送し、5月16日付で書面表決を受け、これを総会といたしました。

第1号議案は令和元年度の事業報告について、第2号議案は令和元年度収支決算についてでした。また、第3号議案は令和2年度事業計画(案)について、第4号議案は令和2年度収支予算(案)についてでした。

その他の議案として、今年9月27日(土)に本県が当番の第34回現代俳句東北大会がアスパムで開催されることから、積立金から10万円を助成することを提案しました。

なお、監査は4月27日に田中監事と今監事の両名で行われ、適正との評をいただきました。その後、三役会議で役員会及び総会は多人数での会場使用開催ができないことから、書面での表決方式として行うことにしました。

決算及び予算の詳細は、全会員に郵送していますので、ここでは概要だけを記載します。

| | |
|-------|----------|
| 1 収入 | 438,986円 |
| 繰越金 | 19,586円 |
| 会費 | 85,000円 |
| 本部交付金 | 73,400円 |
| 年鑑参加費 | 69,000円 |
| 青い森大会 | 175,000円 |
| 雑収入 | 17,000円 |
| 2 支出 | 410,847円 |
| 運営費 | 51,388円 |
| 事業費 | 349,459円 |
| 予備費 | 10,000円 |

令和2年度収支予算

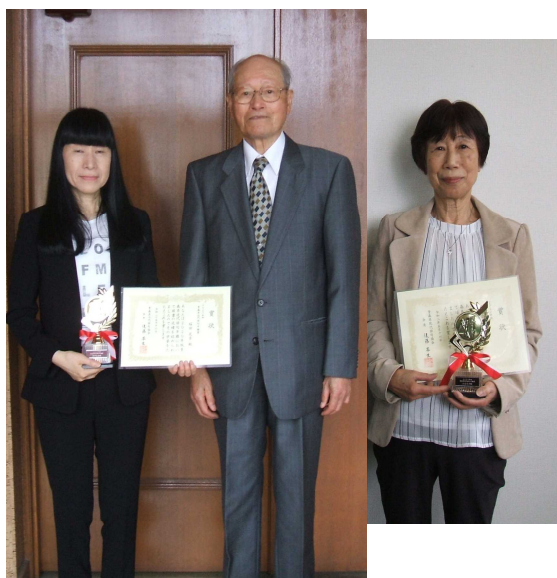
| | |
|-------|----------|
| 1 収入 | 458,000円 |
| 繰越金 | 28,139円 |
| 会費 | 80,000円 |
| 本部交付金 | 60,000円 |
| 年鑑参加費 | 70,000円 |
| 青い森大会 | 108,000円 |
| 東北大会 | 100,000円 |
| 雑収入 | 11,861円 |
| 2 支出 | 458,000円 |
| 運営費 | 42,000円 |
| 事業費 | 406,000円 |
| 予備費 | 10,000円 |

2020年版青森県現代俳句年鑑賞

今回は3回目となります。年鑑には会員の作品76編が掲載されていますが、本賞の対象となつた作品は、顧問、会長、副会長、事務局長、既受賞者を除く66編となりました。

選考委員は顧問が務めることとなっており、第一次選考では2人以上の委員の推薦のあつた12編が第二次選考の候補作に上がりました。第二次選考の結果は次のとおりになりました。

後藤会長と受賞者(桜田さん(左)山谷さん(右))



第13回青い森県民俳句大会

本大会の作品募集中に新型コロナウイルス対策として、会場を使用しての開催が困難となつたことから、兼題だけでの大会に切り替えることになりました。

大会の結果は次のとおりです。

| | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|----|----|
| 第1席 | 16点 | 「息白し」 | 弘前市 | 桜田 | 花音 |
| 第3席 | 9点 | 「秋落暉」 | 八戸市 | 山谷 | 文子 |
| 第4席 | 8点 | 「枕時計」 | 五所川原市 | 松宮 | 梗子 |
| 第5席 | 7点 | 「夏の蝶」 | 青森市 | 関 | 礼子 |
| | | 「生きて」 | 五所川原市 | 森下 | 睦子 |

- ①知事賞・森下睦子(五所川原市)、②県議会賞・金田一一子(大間町)、③青森市長賞・雪田重樹(青森市)、④青森市議会議長賞・西村セイ(八戸市)、⑤東奥日報社長賞・赤坂雪洲(青森市)、⑥陸奥新報社長賞・清野さくら(青森市)、⑦デーリー東北新聞社長賞・敦賀恵子(青森市)、⑧澁田紀子(青森市)、⑨桜庭 恵(弘前市)、⑩竹浪克夫(弘前市)、⑪浜田しげる(青森市)、⑫川村英幸(青森市)、⑬小出登志子(青森市)、⑭市川明子(青森市)、⑮竹浪幸子(青森市)
- ・兼題A賞・金田一一子・兼題B賞・桜庭 恵
- 高句句・作品A
- さへづりの野に来て牛につき当たる 金田一一子
甲田嶺の膨るる音や木の芽雨 竹浪 幸子
夫の忌の椅子のくぼみや暖かし 西村 セイ
やはらかき陽射しも包み難納め 浜田しげる
裸婦像の胸に融けるゆく牡丹雪 清野さくら
傘寿への確かな一歩青き踏む 澁田 紀子
幼子のふはふは言葉水温む 森下 睦子
- 作品B
- でつぼう種井の水の膨らめり 桜庭 恵
傘立ての小さき名札木の芽雨 赤坂 雪洲
春の野に全身笑みのあんよかな 森下 睦子

野球部のダッシュ百回芝青む
陽炎の電車浮き立つ力かな
牛鳴けば山羊の応ふる日永かな

○成績

兼題 A

木村 秋湖選

天位

つなぐ手をつなぎ直して青き踏む

地位

傘寿への確かな一歩青き踏む

人位

靴紐のほだけやすさよ芝桜

秀逸

太宰より周平が好き春炬燵
幼子のふはふは言葉水温む

練焼く祖父の語りのカムチャツカ
春暁や五言絶句の響き良き

かげろふや城の古地図に禅林街

佳作

車椅子足を止めたる藤の昼
新樹光峠に並ぶ石仏

三世代植えし桜や全山に

百頭の牛舎より湯気辛夷咲く

春の昼絵筆の先に陽をあつめ

春の海見てゐて重くなる臉

雁帰る津軽の潮路忘れまじ

やはらかき陽射しも包み雛納め

水音の激しき川辺つくしんぼ

夫の忌の椅子のくぼみや暖かし

小野 寿子選

天位

コロナ禍をただよるよると四月かな

地位

喪服着て二度と来ぬ街沓え返る

人位

傘寿への確かな一歩青き踏む

秀逸

暮らしむきなべて三流春の海
彼岸団子おもかけ知らぬ父母なれど

中村しおん
中堤 福助
大川 恵子

福士 信之

澁田 紀子

萬年 和子

牧 ひろし

森下 睦子

小林 とみ

布施 協一

稲場 暁子

千葉 禮子

畑中とおる

木田多聞天

竹浪 克夫

雪田 重樹

井手上省子

日向 草子

浜田しげる

笹原 郁子

西村 セイ

石崎 志亥

青山 敏枝

澁田 紀子

南 美智子

斎藤今日子

やはらかき陽射しも包み雛納め
峙てる竜飛岬や鳥帰る
水音の激しき川辺つくしんぼ

佳作

日の匂ひ水の匂ひや蛇出づる
三世代植えし桜や全山に

蕪嶋の波に安らぐ残り海猫

三日空けず会ふ友の居り水温む

地下たびの小鉤の加減麦を踏む

穴出でしばかりの蟻や顔拭ふ

夫の忌の椅子のくぼみや暖かし

来てみれば八十路みじかし陽炎へり

赤ぺんで句帳に記す初音かな

轉りの止んで番となりにつけり

敦賀 恵子選

天位

空に屈み雲を搔き出す潮干狩

地位

さへづりの野に来て牛につき当たる

人位

種袋これが最後とまた振りし

秀逸
振ったとて解かりもせぬが種袋

幼子のふはふは言葉水温む

わやわやと競い出でしや名草の芽

地下たびの小鉤の加減麦を踏む

来てみれば八十路みじかし陽炎へり

佳作

ややあつて立つて仔馬の眸のあかり

金縷梅にねぢれ媪にも忘れ

枯れ枝に息吹きかける春の風

春の昼絵筆の先に陽をあつめ

来ぬ人の椅子に声聞く春に暮

甲田嶺の膨るる音や木の芽雨

幸せの魔法さがしに桜吹雪

つなぐ手をつなぎ直して青き踏む

春の海見てゐて重くなる臉

夫の忌の椅子のくぼみや暖かし

浜田しげる
木村 秋湖
笹原 郁子

佐藤いく子

木田多聞天

田村 芳陽

大川 恵子

齊藤 君子

田村 正義

西村 セイ

市川 明子

戸川美重子

葛西 栄子

川村 英幸

金田一一子

小野 寿子

伊藤 芳博

森下 睦子

米塚 みゑ

齊藤 君子

市川 明子

後藤 瑞江

後藤 朋子

坂本 昭三

雪田 重樹

大澤 せい

竹浪 幸子

木村泰佳子

福士 信之

井手上省子

西村 セイ

西川 無行選

天位

甲田嶺の膨るる音や木の芽雨

地位

さへづりの野に来て牛につき当たる

人位

夫の忌の椅子のくぼみや暖かし

秀逸

応ふやうに呼ぶやうに鳴く牛のどか

川底の小さき命水温む

やはらかき陽射しも包み雛納め

背の高さ似たり寄つたり葱坊主

赤ぺんで句帳に記す初音かな

佳作

蝌蚪の池纏れもあらず泳ぎをり

新樹光峠に並ぶ石仏

春の昼絵筆の先に陽をあつめ

土踏まず土に馴染みみて弥生かな

幼子のふはふは言葉水温む

傘寿への確かな一歩青き踏む

春の海見てゐて重くなる臉

蕪嶋の波に安らぐ残り海猫

水音の激しき川辺つくしんぼ

はるかなる海の一線種浸す

金田一一子選

天位

問診に戸惑ふ脳波四月尽

地位

耳朶に秘密生まれし春の夜

人位

梅の香や足もて詰める左遷の荷

秀逸

応ふやうに呼ぶやうに鳴く牛のどか

裸婦像の胸に融けるゆく牡丹雪

いまひとつ度胸の足りぬ恋の猫

穴出でしばかりの蟻や顔拭ふ

来てみれば八十路みじかし陽炎へり

佳作

畑焼くや狼煙のごとく天穿つ

竹浪 幸子

金田一一子

西村 セイ

飯田 知克

江渡永見子

浜田しげる

吉田千嘉子

戸川美重子

一戸 鈴

畑中とおる

雪田 重樹

明才地禮子

森下 睦子

澁田 紀子

井手上省子

田村 芳陽

笹原 郁子

奥田 卓司

草野 力丸

小出登志子

敦賀 恵子

飯田 知克

清野さくら

木村あさ子

田村 正義

市川 明子

高野万津江

猫逝きて膝の寂しき春炬燵
春一番与太を飛ばして立ち去れり
屋根替やトタン打つ音の小気味よし
春の海見てゐて重くなる臉
春雨や声を濡らして妻帰る
醉漢は草書のごとし花の宴
彼岸来る墓守絶ゆる話など
地下たびの小鉤の加減麦を踏む
はるかなる海の一線種浸す

増田 信雄
松宮 梗子
川端恵美子
井手上省子
西川 無行
神 せい子
鹿内 啓子
齊藤 君子
奥田 卓司

人位
甲田嶺の膨るる音や木の芽雨
秀逸
猫逝きて膝の寂しき春炬燵
醉漢は草書のごとし花の宴
やはらかき陽射しも包み雛納め
ほろ苦き禅味がよかり露の臺
夫の忌の椅子のくぼみや暖かし
佳作
応ふやうに呼ぶやうに鳴く牛のどか
蒼穹に貼りつく残雪津軽富士
百頭の牛舎より湯気辛夷咲く
枯れ枝に息吹きかける春の風
さへづりの野に来て牛につき当たる
春雨や声を濡らして妻帰る
おぼろ夜の志功の版画はしやぎだす
梅の香や足もて詰める左遷の荷
いかのぼりたかぶり海へ海へかな
はるかなる海の一線種浸す

竹浪 幸子
増田 信雄
神 せい子
浜田しげる
三ヶ森青雲
西村 セイ
飯田 知克
菊谷三鱒子
竹浪 克夫
坂本 昭三
金田一 一子
西川 無行
白戸 星央
敦賀 恵子
中村 洋子
奥田 卓司

傘寿への確かな一步青き踏む
おぼろ夜の志功の版画はしやぎだす
ほろ苦き禅味がよかり露の臺
轉りを飲み込んでゐる滝の音
中村しおん選
天位
さへづりの野に来て牛につき当たる
地位
幼子のふはふは言葉水温む
人位
裸婦像の胸に融けるゆく牡丹雪
秀逸
百頭の牛舎より湯気辛夷咲く
耳朶に秘密生まれし春の夜
つなぐ手をつなぎ直して青き踏む
いまひとつ度胸の足りぬ恋の猫
やはらかき陽射しも包み雛納め
佳作
ややあつて立つて仔馬の眸のあかり
あの日から九年さくらは咲きつづけ
猫逝きて膝の寂しき春炬燵
川底の小さき命水温む
奥歯から抜けていくのよやぶ椿
蕪嶋の波に安らぐ残り海猫
かげるふや城の古地図に禅林街
地下たびの小鉤の加減麦を踏む
マスク縫ふ一目一目に春突風
夫の忌の椅子のくぼみや暖かし

澁田 紀子
白戸 星央
三ヶ森青雲
田端 千鼓
金田一 一子
森下 睦子
清野さくら
竹浪 克夫
小出登志子
富士 信之
木村あさ子
浜田しげる
後藤 瑞江
大瀬 響史
増田 信雄
江渡永見子
千葉 芳醇
田村 芳陽
稲場 暁子
齊藤 君子
木村 詩織
西村 セイ

高森ましら選
天位
いまひとつ度胸の足りぬ恋の猫
地位
乙女らの甘夏匂ふ五能線
人位
梅の香や足もて詰める左遷の荷
秀逸
産声はドレミらの音いかのぼり
昭和てふ瘤付きの樹の桜咲く
振ったとて解かりもせぬが種袋
米買ひに走って深き春の闇
醉漢は草書のごとし花の宴
佳作
百頭の牛舎より湯気辛夷咲く
春の昼絵筆の先に陽をあつめ
春寒や荷をほどほどに旅の空
整備音のとどろく港桜東風
雪解風農機具の音運びくる
春暁や五言絶句の響きよき
癩症の貧乏揺すり薬ゆる
穴出でしばかりの蟻や顔拭ふ
太宰より周平が好き春炬燵
問診に戸惑ふ脳波四月尽

木村あさ子
畑中 月穂
敦賀 恵子
赤坂 雪洲
齊藤 泥雪
伊藤 芳博
清水山 査子
神 せい子
竹浪 克夫
雪田 重樹
坂本 吟遊
加藤 孝子
柴崎 晃
布施 協一
郡川 宏一
田村 正義
牧 ひろし
草野 力丸

後藤 岑生選
天位
裸婦像の胸に融けるゆく牡丹雪
地位
枯れ枝に息吹きかける春の風
人位
春の昼絵筆の先に陽をあつめ
秀逸
蒼穹に貼りつく残雪津軽富士
春一番与太を飛ばして立ち去れり
甲田嶺の膨るる音や木の芽雨
春雨や声を濡らして妻帰る
おだやかな余生の肩にこぶし咲く
佳作
川底の小さき命水温む
来ぬ人の椅子に声聞く春に暮
曾孫と言ふ心よき響初夏の風
空に屈み雲を掻き出す潮干狩
転校子雲雀東風吹く胸の内
耳朶に秘密生まれし春の夜

清野さくら
坂本 昭三
雪田 重樹
菊谷三鱒子
松宮 梗子
竹浪 幸子
西川 無行
小野いるま

兼題 B
三ヶ森青雲選
天位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
地位
白魚の百の目玉や漆椀
人位
三味の音に桜も踊る梓さばき
秀逸
陽炎の電車浮き立つ力かな

小出登志子
猪股 啓子
中堤 福助

田村 正義選
天位
空に屈み雲を掻き出す潮干狩
地位
金縷梅にねぢれ媼にも忘れ

川村 英幸
後藤 朋子

川底の小さき命水温む
来ぬ人の椅子に声聞く春に暮
曾孫と言ふ心よき響初夏の風
空に屈み雲を掻き出す潮干狩
転校子雲雀東風吹く胸の内
耳朶に秘密生まれし春の夜

江渡永見子
大澤 せい
杉山 畝女
川村 英幸
三橋 聖
小出登志子

白魚の百の目玉や漆椀
三味の音に桜も踊る梓さばき
陽炎の電車浮き立つ力かな

小出登志子
猪股 啓子
中堤 福助

四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
牛鳴けば山羊の応ふる日永かな
黄水仙見えない湖を見てをりぬ
飽食の掌に昔あり蓬餅

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む

中村しおん
桜庭 恵

遠郭公山より届く寺の鐘
草蕨や斗南の丘の孕み牛
春の雨小さき水輪の音もなく
ものの芽のしばしは風を讀み極む
切貼の鳥のとび立つ春障子
野球部のダッシュ百回芝青む
三味の音に桜も踊る梓さばき
耕馬の尾はつしと虻を叩きたる
春眠の脳より俳句遠のけり

畑中とおる
和田たかし
清水山査子
木村あさ子
竹村 俊郎
中村しおん
猪股 啓子
齊藤 君子
葛西 栄子

これ以上丸くはなれぬ春満月
窓枠の螺子がゆるみて山笑ふ
桜咲く津波ここまで来しと云う
おだやかにどの切株も春を待つ
春の雨小さき水輪の音もなく
とびはねる大きな夢に新入生
春愁や明子句会の懐しき
日を抱き母の耕始まりぬ
木の芽風つると殻の茹卵
春眠の脳より俳句遠のけり

伊藤 芳博
松宮 梗子
加藤健一郎
後藤 岑生
清水山査子
柴崎 晃
布施 協一
榊 せい子
中村 洋子
葛西 栄子

傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
春の雨小さき水輪の音もなく
子を発たす発車のベルや春の星
牛鳴けば山羊の応ふる日永かな
土の香のほのと生地の田螺和
巢つばめや老舗の酒屋常宿に
佳作
不登校の子と語りあふ春の草
朝刊に落花一片添へられし
桜咲く津波ここまで来しと云う
おだやかにどの切株も春を待つ
根開きのブナの心音聴きにけり
鳥帰る胸ポケットにいつもペン
風来れば風の形に桜ちる
雨やみて菜の花さらに黄を濃くす
二度三度振り声聞くや種物屋
大小の銀輪四個春野行く

赤坂 雪洲
清水山査子
清野さくら
大川 恵子
田村 正義
戸川美重子
竹浪 克夫
牧 ひろし
加藤健一郎
後藤 岑生
草野 力丸
敦賀 恵子
稲部天津子
小野いるま
石崎 志亥
青山 敏枝

関 礼子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
天位
天仰ぎ無念の春ぞ新コロナ
人位
陽炎の電車浮き立つ力かな
秀逸
ボス猫も目に怪我をして猫の恋
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
春の雨小さき水輪の音もなく
春の風歩け歩けと背を押す
縄文の森に根明けの息遣ひ
佳作
傘立ての小さき名札木の芽雨
薇の湯気ゆらゆらと薫筵
草蕨や斗南の丘の孕み牛
朝刊に落花一片添へられし
春の野に全身笑みのあんよかな
春の野に全身笑みのあんよかな
風来れば風の形に桜ちる
コロナ禍や地図で楽しむ花の旅
三味の音に桜も踊る梓さばき
巢つばめや老舗の酒屋常宿に
春眠の脳より俳句遠のけり

中村しおん
加藤 孝子
中堤 福助
筑田まさ子
雪田 重樹
清水山査子
澁田 紀子
田中 三桃
赤坂 雪洲
木田多聞天
和田たかし
牧 ひろし
森下 睦子
稲部天津子
浜田しげる
猪股 啓子
戸川美重子
葛西 栄子

草野 力丸選
天位
陽炎の電車浮き立つ力かな
地位
奪衣婆の歯なき口や山笑う
人位
行く当てもなき日曜の春炬燵
秀逸
窓枠の螺子がゆるみて山笑ふ
春の野に全身笑みのあんよかな
縄文の森に根明けの息遣ひ
難癖の付けどころなき猫柳
赤ん坊はなんでも口に山笑う
佳作
はじまりとおわりを告げる春の雷
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
馥郁と眠る赤子や春の月
これ以上丸くはなれぬ春満月
おだやかにどの切株も春を待つ
白魚の百の目玉や漆椀
夕間暮野焼きのほひ持ち帰る
柔らかにすべてを包む春の闇
春昼の濃厚接触膝の猫
耕しや遠くにかすむ開拓碑

中堤 福助
金田 一一子
田村 芳陽
松宮 梗子
森下 睦子
田中 三桃
豊川 君子
西村 セイ

渡邊 寂隆選
天位
飽食の掌に昔あり蓬餅
地位
春の野や一步ためらふ土の息
人位
杖の身に是悲もなかりし鳥雲に
秀逸
傘立ての小さき名札木の芽雨
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

雪田 重樹
明才地禮子
伊藤 芳博
後藤 岑生
小出登志子
井手上省子
日向 草子
藤田智恵子
小野 寿子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
地位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
人位
傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

雪田 重樹
明才地禮子
伊藤 芳博
後藤 岑生
小出登志子
井手上省子
日向 草子
藤田智恵子
小野 寿子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
地位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
人位
傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

雪田 重樹
明才地禮子
伊藤 芳博
後藤 岑生
小出登志子
井手上省子
日向 草子
藤田智恵子
小野 寿子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
地位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
人位
傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

雪田 重樹
明才地禮子
伊藤 芳博
後藤 岑生
小出登志子
井手上省子
日向 草子
藤田智恵子
小野 寿子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
地位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
人位
傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

雪田 重樹
大川 恵子
小田桐妙女
市川 明子

雪田 重樹
明才地禮子
伊藤 芳博
後藤 岑生
小出登志子
井手上省子
日向 草子
藤田智恵子
小野 寿子

吉田千嘉子選
天位
野球部のダッシュ百回芝青む
地位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
人位
傘立ての小さき名札木の芽雨
秀逸
四月馬鹿脳みそとけるほど眠し
花見席コロナ陣取る不況風
木の芽風つると殻の茹卵
コロナの禍常と変はらぬ芽吹きかな
佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり

市川 明子
増田 信雄
大澤 せい
赤坂 雪洲
雪田 重樹
川端恵美子
中村 洋子
須郷 権太
桜庭 恵

大瀬 響史選
天位
卵かけごはんが好きでつくしんぼ
地位
鳥帰る胸ポケットにいつもペン

川村 英幸
敦賀 恵子

人位
百日の色鉛筆や黄水仙
稲場 暁子

秀逸
窓枠の螺子がゆるみて山笑ふ
松宮 梗子

春日やしあわせさうに人の愚痴
坂本 吟遊

根開きのブナの心音聴きにけり
草野 力丸

夕間暮野焼きのほひ持ち帰る
井手上省子

雪解川海に入るとき海の貌
畑中 月穂

佳作
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
桜庭 恵

傘立ての小さき名札木の芽雨
赤坂 雪洲

青年は街へ耕すのみの老人
高野 万津江

春の野や一步ためらふ土の息
増田 信雄

子どもらへ恙無しこと花だより
三橋 聖

春の野に全身笑みのあんよかな
森下 睦子

縄文の森に根明けの息遣ひ
田中 三桃

日を抱き母の耕始まりぬ
榊 せい子

コロナ禍や地図で楽しむ花の旅
浜田しげる

春昼の濃厚接触膝の猫
藤田智恵子

松宮 梗子選
天位
不登校の子と語りあふ春の草
竹浪 克夫

地位
巣つばめや老舗の酒屋常宿に
戸川美重子

人位
春の野に全身笑みのあんよかな
森下 睦子

秀逸
取りあへず卒寿を目指し土筆摘む
後藤 朋子

春の風歩け歩けと背を押す
澁田 紀子

赤ん坊はなんでも口に山笑う
西村 セイ

行く当てもなき日曜の春炬燵
田村 芳陽

島裏にすなごらる一艘さくら東風
吉田千嘉子

佳作
名言にまさる名句や三鬼の忌
斎藤ひでを

奪衣婆の歯なき口や山笑う
金田 一子

縄文の森に根明けの息遣ひ
田中 三桃

一本の桜に道の岐れけり
西川 無行

観光バス花のトンネルぬけてゆく
萬年 和子

野球部のダッシュ百回芝青む
中村しおん

土の香のほのと生地の田螺和
田村 正義

大小の銀輪四個春野行く
青山 敏枝

靄籠めに芽ぶかんとして札所道
田端 千鼓

朝もやのべールより現れ姫こぶし
奥田 卓司

山谷 文子選
天位
傘立ての小さき名札木の芽雨
赤坂 雪洲

地位
風来れば風の形に桜ちる
稲部天津子

人位
牛鳴けば山羊の応ふる日永かな
大川 恵子

秀逸
母恋し八十八夜の雨となり
千葉 禮子

夕間暮野焼きのほひ持ち帰る
井手上省子

柔らかにすべてを包む春の闇
日向 草子

雨やみて菜の花さらに黄を濃くす
小野いるま

夫の打つ碁石の音や春の月
千葉すみれ

佳作
春の野や一步ためらふ土の息
増田 信雄

これ以上丸くはなれぬ春満月
伊藤 芳博

朝刊に落花一片添へられし
牧 ひろし

桜咲く津波ここまで来しと云う
加藤健一郎

春日やしあわせさうに人の愚痴
坂本 吟遊

子を発たす発車のベルや春の星
清野さくら

鳥帰る胸ポケットにいつもペン
敦賀 恵子

行く当てもなき日曜の春炬燵
田村 芳陽

竜飛岬越れば蝦夷地鳥帰る
木村 秋湖

耕しや遠くにかすむ開拓碑
小野 寿子

坂本 幽弦選
天位
でつぼうぼう種井の水の膨らめり
桜庭 恵

地位
花ぶぶき墓石の艶に留らず
齊藤 泥雪

人位
春の野に全身笑みのあんよかな
森下 睦子

秀逸
不登校の子と語りあふ春の草
竹浪 克夫

春日やしあわせさうに人の愚痴
坂本 吟遊

朝刊に落花一片添へられし
牧 ひろし

靄籠めに芽ぶかんとして札所道
田端 千鼓

袋町の友の案内花巡り
藤田ナツ子

佳作
真実と思へばしあわせ春の空
福井千恵子

おだやかにどの切株も春を待つ
後藤 岑生

春の雨小さき水輪の音もなく
清水山査子

子を発たす発車のベルや春の星
清野さくら

根開きのブナの心音聴きにけり
草野 力丸

昂ぶりをみせぬ女波や春の海
米塚 みゑ

牛鳴けば山羊の応ふる日永かな
大川 恵子

耕馬の尾はつしと蛇を叩きたる
齊藤 君子

島裏にすなごらる一艘さくら東風
吉田千嘉子

土の香のほのと生地の田螺和
田村 正義

青森県俳句懇話会俳句大会

今年の大会は、新型コロナウイルス対策のため中止となりました。

事務局からのお願い

- ・本会報に掲載する情報等を電話やファックスなどでお寄せください。
- ・本協会への入会について、お知り合いの方をお誘いください。
- ・新型コロナウイルスの感染が心配されますが、こんな時こそ俳句に集中しましょう。

◆今後の大会等予定

| | |
|-----------------|--------|
| ・第48回県懇話会十和田大会 | 6月30日 |
| ・第34回現代俳句東北大会 | 9月27日 |
| ・第39回県下深浦俳句大会 | 10月3日 |
| ・第60回県下五所川原俳句大会 | 10月11日 |
| ・第57回現代俳句全国大会 | 10月25日 |
| ・秋の吟行互選俳句大会(未定) | 10月下旬 |
| ・第40回弘前俳句大会 | 11月4日 |

発行所 青森県現代俳句協会
 後藤 岑生
 〒0301085 青森市金沢4の10の13